

特定不妊治療受診証明書

次の者については、特定不妊治療を実施し、これに係る医療費を次のとおり徴収したことを証明します。

年 月 日

指定医療機関の住所

名称

主治医氏名

印

(署名又は記名押印)

医療機関記入欄 (主治医が記入すること)

(ふりがな) 受診者氏名	夫	()	妻	()	
受診者生年月日※1 (和暦)		年 月 日 (歳)		年 月 日 (歳)	
今回の治療方法	A・B・C・D・E・F 該当する記号(注参照)に○を付けてください		A又はBの場合 1. 体外受精 2. 顕微授精 該当する番号に○を付けてください		
	男性不妊治療を行った場合は、行った手術療法を記載してください。 〔 〕		(精子回収の有無) 1. 有 2. 無		
今回の治療期間※2 (和暦)	年 月 日 ~ 年 月 日				
日本産科婦人科学会 UMIN 個別調査票 登録の有無	有 → 症例登録番号 ※3		無		
領収年月日(和暦)	年 月 日 ~ 年 月 日				
[今回の治療にかかった金額合計(保険外診療に限る)]			助成対象外経費とは、 治療に直接関係ない費用(入院費、食事代、 凍結された精子、卵子、 受精胚の管理料(保存料)等。		
特定不妊治療費 (男性不妊治療費除く)	領収金額	円(うち助成対象外経費			円)
男性不妊治療費※4 (手術料及び凍結料)	領収金額	円(うち助成対象外経費			円)
院外処方及び他院での治療の有無 ※5	有 ・ 無				

※1 年齢は、「今回の治療開始期間」欄に記載する始期の時点における年齢を記載してください。

※2 治療期間については、採卵準備又は凍結胚移植を行うための投薬開始等を行った日から治療終了日までを記載してください。ただし、主治医の治療方針に基づき、採卵準備前に男性不妊治療を行った場合は、男性不妊治療を行った日から特定不妊治療終了日までを記載してください。

※3 日本産科婦人科学会 UMIN 個別調査票に登録した症例登録番号を転記してください。

※4 主治医の治療方針に基づき、主治医の属する医療機関以外の他の指定を受けていない医療機関(指定を受けていない医療機関である場合を含みます。)で男性不妊治療を行った場合は、主治医が患者から男性不妊治療として支払った領収書の提出を受け、主治医が領収金額を記載してください(令和3年3月31日までに終了する治療に限る)。

※5 今回の治療にかかる、保険外の院外処方箋及び貴院の指導に基づく他院での治療の有無について記載してください。

(注1) 助成対象となる治療は次のいずれかに相当するものです。

- A 新鮮胚移植
B 採卵から凍結胚移植に至る一連の治療を実施(採卵・受精後、胚を凍結し、母体の状態を整えるために1~3周期程度の間隔をあげた後に胚移植を行うとの治療方針に基づく一連の治療を行った場合)
C 以前に凍結した胚による胚移植を実施
D 体調不良等により移植のめどが立たず治療終了
E 受精できず、または胚の分割停止、変性、多精子授精などの異常授精等による中止
F 採卵したが卵が得られない、又は状態のよい卵が得られないため中止

(注2) 採卵準備前に男性不妊治療を行ったが、精子が得られない、又は状態のよい精子が得られないため治療を終了した場合も助成の対象となります。

(注3) (注2)の場合を除き、採卵に至らないケース(助成への侵襲的治療のないもの)は助成対象となりません。